症例報告

妊娠中に再燃し、早期発見が困難であった肺非結核性抗酸菌症の1例

尾下 豪人, 井上 亜沙美, 佐野 由佳, 吉岡 宏治, 池上 靖彦, 山岡 直樹

所属機関:国家公務員共済組合連合会吉島病院 呼吸器内科

要旨

症例は 45 歳女性. 約 3 年半前まで肺 M. intracellulare 症に対して多剤併用療法が行われ、排菌陰性化した. 出産後から湿性咳嗽が出現し、胸部 CT で両肺に多発する粒状影、分枝状影を指摘され、喀痰から M. intracellulare が再検出された. 関節リウマチ合併、抗 TNF 製剤・ステロイド長期投与、低体重があり、再燃に注意を要する症例であったが、妊娠中は画像検査を控えたため早期発見が困難であった. 肺非結核性抗酸菌症の周産期管理は重要な臨床課題である.

1

キーワード:

Mycobacterium intracellulare

肺非結核性抗酸菌症(non-tuberculous mycobacterial pulmonary disease: NTM-PD)

妊娠 (pregnancy)

関節リウマチ (rheumatoid arthritis)

低体重(low weight)

短縮タイトル:妊娠中に再燃した肺 NTM 症